

(2) 各教科結果の分析

調査結果において、全国の平均正答率と比べ、国語・算数・理科の全体の正答率は、全国平均を2～3ポイント上回っています。一方で、「学年別漢字配当表に示された漢字を文の中で正しく使う」「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している」「メスシリンダーという器具を理解している」などの知識・技能分野で課題があります。日頃より、基礎基本の確実な定着にむけた指導の充実を図っていきます。

(3) 児童質問紙調査結果より

<学習意欲>

- ・国語と理科で全国平均を上回っています。基礎・基本の定着を図り、学習意欲がさらに向上していくように努めます。
- ・5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」では、あてはまる、どちらかといえばあてはまると答えた児童の合計が74%で、全国平均と比べ5ポイント上回っています。引き続き、自分の思いを豊かに表現していけるような学習をめざします。

<学習習慣>

- ・「学校の授業以外の時間に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、3時間以上と答えた児童は35%で、全国より24ポイントも上回りました。今後も、日々の宿題と共に、自分で計画を立てて学習を進めていけるよう指導の工夫に努めます。

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どのくらいの時間読書しますか」では、30分以上と答えた児童の合計が47.1%で、全国平均と比べ10ポイント高い結果となりました。さらに、本に親しむことで語彙を豊かにし、学力の基礎となる読解力が高まるように指導していきます。

<生活習慣>

- ・「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで動画を視聴しますか」では、携帯電話やスマートフォンをもっていない、30分より少ない、と答えた児童は48.1%で全国平均より13ポイント上回りました。一方で、4時間以上と答えた児童は、全国と比べ6ポイント高い結果となりました。今後は、SNS・動画視聴の適切な利用時間について、引き続き指導するとともに、家庭で話し合ったり考えたりする必要があると考えます。
- ・「放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか」では、学習塾など学校や家以外の場所で勉強していると答えた児童は49%で、全国平均と比べて25ポイント高く、習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしていると答えた児童は49%で、全国平均と比べ13ポイント上回っています。放課後や週末も比較的忙しく過ごしている児童が多いことから、体調管理の声かけを続け、無理なく元気に学校生活が過ごせるようにします。

<規範意識・自己有用感>

- ・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」では、あてはまる、どちらかといえばあてはまると答えた児童は、55.8%で全国平均と比べると17ポイント低い結果となりました。今後は、児童が互いに認め合い助け合って活動する中で、一人ひとりが自己有用感をもてる学級づくり、学年経営を目指します。